平成25年度カンデルスティッヒ

夏季野営スタッフ報告書

ボーイスカウト岩手連盟　盛岡第5団

ローバー隊　川守田　智

公益財団法人
ボーイスカウト日本連盟

謝辞

ボーイスカウト日本連盟国際委員会並びにボーイスカウト日本連盟事務局の皆様には，派遣員選考に始まり，事前訓練，派遣期間中のサポートと，多大なご支援・ご協力を頂きました．皆様のご尽力なしでは本派遣の成功はあり得ませんでした．ここに心から感謝の意をあらわします．

ボーイスカウト千葉連盟八千代第２団小長谷有さん，ボーイスカウト岩手連盟盛岡第５団鷺坂史明さんには本派遣ＯＢとして貴重なご助言を賜りました．ここに深く感謝いたします．

内宮眞委員長をはじめとする，ボーイスカウト岩手連盟盛岡第５団団委員会，指導者，スカウト，保護者の皆様には派遣にあたりあたたかい励ましのお言葉を頂きました．ここに深く感謝いたします．

最後に派遣にあたり背中を押し，経済的な支援をしてくだ　さった両親に感謝します．

目次

１．　KISCとは

１．１歴史

１．2スタッフ

２. KISCの日々

２．１　3ヶ月のあらまし

２．２　一日の流れ

２．３　曜日ごとのイベント

２．４　特別イベント

２．５　ルームメイト

２．６　Offの過ごし方

３．　私の仕事

３．１　ハイキングガイド

３．２　チャレンジアクティビティー

３．３　他部門への出向

４. 派遣を終えての感想・今後の展望

１．　KISCとは

１．１歴史

　1920年の第1回世界スカウトジャンボリーが成功裏に終了し，ベーデン・パウエルは「スカウトが常にジャンボリーの雰囲気を体験できる，常設の“ミニジャンボリー”のための施設があれば．．．」という夢を描きます．1921年スイスのチーフスカウトであるWalter von Bonstettenはアルプス山脈の谷，Kanderstegに使われていない宿泊施設（トンネル建設作業員とその家族のための施設だったが，トンネル開通後使われなくなったもの）を発見します．ここはアルプスの中央に位置し，スカウティングにとても適した環境であったため，彼はその発見をB－Pに伝えました．翌年1922年にはB－Pが実際に訪れ，1923年，オランダ皇太子殿下，ウェールズ皇太子殿下，世界スカウト機構がスポンサーとなり，Kanderstegの建物と土地が購入され，Kandersteg Intrenational Scout Centre（KISC）が創立されました．今年2013年はKISC創立から90周年となる記念の年となります．

１．２スタッフ

KISCは夏期には約70名のスタッフが働いています．ピーク時には一時的にハイシーズンスタッフが加わり100名近くにもなります．スタッフ70名のうち25名は役職付きの10ヶ月から3年程度の任期の長期スタッフ，残りが季節ごとの短期スタッフになります．私は後者の夏期短期スタッフとして奉仕しました．長期スタッフは短期スタッフ経験者から公募で選ばれます．長期スタッフのうち，ジェネラルディレクターがスタッフのトップで，それに続きオペレーショナルディレクター，プログラムディレクター，ゲストサービスディレクターの4人がシニアマネジメントチームと呼ばれ，KISCの運営に関して責任をもっています．彼らの下にはキャンプサイトマネージャー，ハウスマネージャー，エコアシスタント，インターナショナルフレンドシップアシスタントなど彼らを補佐し，特定の業務に特化した長期スタッフがついています．私たち短期スタッフは彼らの指導のもと，キャンプ場運営に関して実働部隊として働きます．

はじめの2週間は朝から晩までみっちりとトレーニングをします．KISCのルールや円滑なコミュニケーションなどの一般的なことを学びながら，ハイキングガイド，クライミングガイド，ケータリング，清掃，リサイクル，レセプション，キャンプサイト整備，すべての仕事を体験します．

２．KISCの日々

２．１　3ヶ月のあらまし

次表のように，2週間の一般スタッフトレーニングの後に，プログラム部のトレーニングが行われ，その後すぐに実際の仕事にあたりました．期間中にはCamp Alpine（BSAのイベント），Hampshire Expedition（イギリス連盟ハンプシャー地区のイベント），GLMW（イギリス連盟Greater London Middlesex West地区のイベント）といった500人規模の大グループが入れ替わり利用し，それと同時に数十もの団．隊，班規模のグループが常に宿泊し，ピーク時には1800人の客がKISCに滞在していました．カンデルシュテークの人口は1000人なので，それと比較するとどれだけ大きいかわかります．

6月8日	スタッフトレーニング
6月9日	D－DAY
6月10日	スタッフトレーニング
6月11日	スタッフトレーニング／奥島理事長ご来訪
6月12日	スタッフトレーニング
6月13日	スタッフトレーニング
6月14日	スタッフトレーニング
6月15日	スタッフトレーニング
6月16日	スタッフトレーニング
6月17日	スタッフトレーニング
6月18日	スタッフトレーニング
6月19日	スタッフトレーニング
6月20日	スタッフトレーニング
6月21日	スタッフトレーニング
6月22日	部門別トレーニング
6月23日	部門別トレーニング
6月24日	部門別トレーニング
6月25日	部門別トレーニング
6月26日	部門別トレーニング
6月27日	部門別トレーニング
6月28日	部門別トレーニング
6月29日	
6月30日	Camp　Alpine

7月1日	Camp　Alpine
7月2日	Camp　Alpine
7月3日	Camp　Alpine
7月4日	Camp　Alpine
7月5日	Camp　Alpine
7月6日	Camp　Alpine
7月7日	
7月8日	
7月9日	
7月10日	
7月11日	
7月12日	
7月13日	
7月14日	インターナショナルローバーウィーク
7月15日	インターナショナルローバーウィーク
7月16日	インターナショナルローバーウィーク
7月17日	インターナショナルローバーウィーク
7月18日	インターナショナルローバーウィーク
7月19日	インターナショナルローバーウィーク
7月20日	インターナショナルローバーウィーク
7月21日	インターナショナルローバーウィーク
7月22日	インターナショナルローバーウィーク
7月23日	インターナショナルローバーウィーク
7月24日	インターナショナルローバーウィーク
7月25日	
7月26日	
7月27日	
7月28日	
7月29日	
7月30日	
7月31日	

8月1日	Swiss National Day
8月2日	
8月3日	Hampshire Expedition
8月4日	Hampshire Expedition
8月5日	Hampshire Expedition
8月6日	Hampshire Expedition
8月7日	Hampshire Expedition
8月8日	Hampshire Expedition
8月9日	Hampshire Expedition
8月10日	Hampshire Expedition
8月11日	Hampshire Expedition
8月12日	Hampshire Expedition
8月13日	Hampshire Expedition
8月14日	Hampshire Expedition
8月15日	Hampshire Expedition
8月16日	Hampshire Expedition
8月17日	Hampshire Expedition
8月18日	
8月19日	GLMW Expedition
8月20日	GLMW Expedition
8月21日	GLMW Expedition
8月22日	GLMW Expedition
8月23日	GLMW Expedition
8月24日	GLMW Expedition
8月25日	GLMW Expedition
8月26日	GLMW Expedition
8月27日	GLMW Expedition
8月28日	GLMW Expedition
8月29日	GLMW Expedition
8月30日	GLMW Expedition
8月31日	

9月1日	Staff Snow and Ice
9月2日	Staff Snow and Ice
9月3日	
9月4日	Staff Day Out
9月5日	大掃除
9月6日	帰路へ

２．２　一日の流れ

08:00	Thought of the day
08:30	午前のプログラムスタート
12:00	--昼食--
	ランチブレイク
14:00	午後のプログラムスタート
17:30	--夕食--
19:30	夜のプログラムスタート
22:00	消灯・自由時間

KISCの朝はThought of the dayから始まります．これは，１日の始めに，その日の宿泊者数を確認したり注意点，連絡などをしたりする短時間のミーティングです．その日のDUTY（当直）スタッフはこの場の5分程度を自由に使って，面白い話や考えさせられる話をしたり，動画を見せたりしてスタッフに今自分が伝えたいことを話します．私は8月にDUTYがまわってきたときはタイムリーな話題として原爆の話をしたり，その他の月には相撲の紹介をしたりしました．

私はハイキングガイドだったので（週に3～4日はハイキング），ランチブレイクはない日のほうが多く，常に歩き続けていました．また，8時前集合のハイキングがあったり，オーバーナイトハイクのときはKISCにいられなかったりするので，Thought of the dayには余り参加できませんでした．

夜のプログラムは週に1回程度しかまわってこないので，普通は夕食後にはフリーになります．体を休めたり，スタッフルームで談笑したり，BARにいったり，思い思いに時間を過ごします．しかしながら，ハイキングガイドはハイキング前日にはビール1本しか飲めないというルールがあったため，私のナイトライフは慎ましいものでした．もちろん，スカウトの前での飲酒は御法度です．ピンキーらしく，ルールを守って楽しみます．

仕事の終わりに仲間と話す時間は至福のひととき

２．　３　曜日ごとのイベント

月曜日	フラッグブレイク
	インターナショナルイブニング
火曜日	カンデルチャレンジ
水曜日	スカウツオウン
	ディスコ
	リーダーズギャザリング
木曜日	レース・ザ・ワールド
金曜日	インターナショナルキャンプファイア
土曜日	パイオニアリングコンペティション
日曜日	インターナショナルスポーツアフタヌーン
	インターナショナルBBQ

上表にまとめたように，KISCでは曜日ごとに様々なイベントが運営されています．これらは予約なしでゲストにオープンに開かれ，他のグループのスカウトとの交流を目的にされています．このなかで特徴的なものを以下で紹介します．

インターナショナル・イブニング

自分の出身国の文化や料理を紹介します．ハイシーズンにはKISCにはゲストだけで常に10カ国のスカウトは滞在しているため，気軽に国際交流が楽しめます．ちなみにピンキーは25カ国から参加しています．

自国の料理を紹介するオランダのスカウト

レース・ザ・ワールド

10名程度のグループ対抗で，世界各国のゲームをします．

南極・ペンギンレースの様子

インターナショナル・キャンプファイア

１週間のなかで最も盛り上がる時間帯はやはりこのイベント，キャンプファイアのときです．KISCらしく，様々な言語のスカウトソング，スタンツが繰り広げられます．ピンキーの間で一度歌ったらなぜかうけた「かえるのうた」を私はキャンプファイアの度に歌っていました，この様子がゲストによりYoutubeにあがっていたので，どうぞご覧ください．　http://www.youtube.com/watch?v=F7UlLBp4z4c&feature=youtu.be
キャンプファイアではMCも務めました．

スカウトが１つであると感じる瞬間

２，４　特別イベント

Ｄ－DAY

トレーニングの初日に行われるスタッフのためのイベントです．仮装し，村の様々なところにある課題を解きながら，オッシネン湖へ向かいます．銀行，病院，お土産屋，観光案内所ありとあらゆるところをまわり，村人のみなさんはKISCに新しいスタッフがやって来たことを知ります

August 1st

1291年8月1日はスイスの建国記念日であり，1907年8月1日はブラウンシー島でB－Pの実験キャンプが始まった日でもあります．ゆえに，2013年8月1日はスイスの722歳，スカウト運動の106歳の誕生日ということになります．スイス全土でお祭り騒ぎになるこの日をKISCも特別な形でお祝いします．

まず，全員が朝5時ごろからKISCをたち，オッシネン湖へハイキングを開始します．そして，オッシネン湖で日の出を全員で見ます（スカウティング・サンライズ）．その後セレモニーが行われ，スカウトのちかいを各々の言語で一斉に唱えます．セレモニーにはスイスの伝統芸能も用意されます．その後はスカウトに村のスポーツ施設が無料開放され，スタッフもプログラムを提供します，午後の4時からは村からKISCまでパレードをします．世界各国のユニフォームに身を包んだ1000人以上の大行進を村の人々は楽しみにしています．

その後はバーベキューがあり，夜のセレモニーがあり，ようやく8月1日は終わりを迎えます．

日の出を待つスカウトたち

スイスの伝統芸能ファーネンシュヴィンゲン（旗振り）

パレード

夜のセレモニー

Staff Day Out

シーズンの終わりにスタッフ全員で遊びにでかけます．山の展望台で高級な朝食を食べて，リバーチュービングという浮き輪でトゥーンからベルンまで30km流され，村に戻っておいしいディナーを頂きました．仲間との最高で最後の思い出をつくることができました．

２．５　ルームメイト

部屋は3人部屋で，私はアメリカ人のタッド，イギリス人のスティーブと同室でした．タッドはアラスカ州出身の元イーグルスカウト．アラスカ大学でアウトドアレクリエーションの学位を取得し，クライミングの腕前もプロ級のアウトドア活動のスペシャリスト．KISCに来る前はカリフォルニアでスキー・スノーボードインストラクターをしていた25歳です．スティーブは30歳で，英国陸軍でイラク，アフガニスタンなどで勤務した後，一昨年退官．現在は大学で勉強中（現在首席）．二人とはとても深い話をして，堅い友情で結ばれました．

左から私，スティーブ，タッド

２．６　Offの過ごし方

スタッフは1週間に1．5日の休みをとることができます．この休みは2週連結して3連休をつくることもでき，その取り方はスタッフの自由です．もちろん忙しさに応じて希望通りにならないこともありますが．私はOffの約4分の1を休養に，4分の3をKISC近辺でのハイキングやクライミングにあてていました．KISCは本当にすごいところで，それだけまわってもまわりきれないほどのハイキングコースやクライミングコース，様々なアクティビティがあります．

以下にその一端を紹介します.

Kandersteg Via Ferrata

Via Ferrataとは写真のように天然のがけにボルトやワイヤーが着けられたタイプのクライミングコースです. 常にハーネスとコース上のワイヤーをカラビナで固定すれば落ちる心配はありません. 300mを3時間かけて登ります,

Bire 2502m

オッシネン湖を臨む素晴らしい景色が楽しめる山. Kandersteg の象徴的存在

Dauvenhorn Via Ferrata

Kandersteg よりも長く，6時間かかるタイプのVia Ferrata．洞窟の中に入っていったり，100mのはしごがあったり，スリル満点．

Snow and Ice

氷河歩行，クレバス救助，クレバスジャンプ，アイスクライミングなど氷河を遊び尽くすアクティビティ，シーズン中はスカウトに提供されるプログラムですが，シーズン後にスタッフで行く機会がありました．

ハイロープパーク

KISCから徒歩１０分の場所にある，木の上に渡されたコースを攻略していくアクティビティ．KISCのスタッフは特別に無料で解放されています．

３．私の仕事

　スタッフトレーニングの後，夏期スタッフは，希望をもとに部門ごとに配属されます．キャンプサイト部に7名，シャーレサービス部に１１名，プログラム部に１５名（ハイキングガイド7名，クライミングガイド5名，インキャンプガイド3名）と振り分けられる中で，私は第１希望通り人気だったハイキングガイドとして任命されました．他部門の仕事を体験するチャンスもあり，キャンプサイトの仕事を2日，シャーレサービスの仕事を3日行うこともありました．また，任期中に3回まわってくるDUTY（当直）の日には受付，点検等の業務をこなしました．

３．１ハイキングガイド

　ハイキングガイドはKandersteg周辺の山に8－１５人のゲストを連れて行くお仕事です．スカウトの様子を見ながら歩くペースをコントロールし，アルプスの自然や様々な面白い事実を伝えながら，ゲストといっしょにハイクを楽しみます．応急手当を含め，ゲストの健康管理にも責任を持ちます．日本のハイキングよりも登山に近いかたちです．KISCのガイド付きハイクには以下の種類があります．

Cheesery Hike （チーズ工場ハイク）

　朝スカウトセンター（１１００m）をたち，3時間半ほど登山．チーズ工場（約１８３３m）にて伝統的なチーズづくりを見学し，チーズ，絞り立ての牛乳を試食・試飲．その後スカウトセンターに引き返すハイクです．道中ではKanderstegの谷の絶景も見られます．低年齢のスカウト（１０～１３）に人気のコースとなっています

チーズ工場の概観

チーズづくり名人，オーナーのElsbethさん

チーズ工場からの眺め

Bunderspietz Hike

スカウトセンターから歩いて15分Almnalpケーブルカー（昔欧州一急なケーブルカーだった）に乗り，1500m地点へ．そこからBunderspietz頂上（2546m）を目指し約4時間，頂上ではKanderstegだけでなく，山脈を挟んで反対側にあるAderbodenの谷まで見渡せます．その後約3時間かけてセンターへ戻ります．

Bunderspietz頂上からの眺望

1 Day Löstchenpass Hike

氷河の上を通過する人気のハイクです．センターからバスで30分，Kandersteg の隣のGasterntal谷の端から出発します．そこから登り約4時間半，道中には滝，氷河と自然の宝庫．標高2690mのLöstchenpass hütte（山小屋）を最高地点として，反対側の谷底へ更に3時間半かけて抜け，そこからはKISCができるきっかけにもなった鉄道トンネルLötschebergトンネルを電車で抜けてKandersteg へ戻ります．

Löstchenpassはローマ時代からスイス中部とスイス南部・イタリアを結ぶ歴史ある道です．Kandersteg が位置するBern州とその南隣に位置するValasis州の境界ともなっています．現在Löstchenpassはその両州共通の領土となっています．というのも，この道が貿易上非常に重要であったため両州で取り合いになり，17世紀には戦争にまで発展したからです．この戦争は結局Lösthenpassを共有の領土とすることで決着しました．当時の兵士は50kgもの鎧と，50kgの銃を手にこのハイキングコースを通過していたと考えるとなんとも感慨深いものがあります．

Lötschenpass氷河（6月上旬）

Lötschenpass氷河（8月下旬）

2 Day Lötschenpass Hike

上記のハイクを山小屋に宿泊して，２日間で行うハイク．１日目はスカウトセンターからGasternal谷を経て，山小屋（Gfelalp）へ．２日目は山小屋から出発して，その後の行程は上記のハイクと同一となります．

山小屋Gfelalpは元々登山客の為の民間のレストランでしたが，昨年店を閉じることになりました．その後KISCの長年の援助者が買い取り，現在はKISCのゲストのみによって使われています．

Gfelalp

Höckenhorn hike

KISCのガイド付きハイクの中で，最も距離が長く，最も標高が高いところまでいく，最難関のハイク．１日目朝8：30，センターを出発し，Lötschenpass hütteへ．16：00までに到着の予定が，18：00近くになることも．夕食後，宿泊．朝7：45に山小屋をたち，12：30頃にHöckenhornの山頂（3292m）へ．その後山小屋へ引き返し，後の行程はLötschenpassハイクと同一となります．

山頂からの素晴らしい景色は格別．スカウトは大きな達成感を得られます．KISCに来るのは特にイギリスのスカウトが多いですが，グレート・ブリテン島の最高地点は1344mであるため，彼らにとって3000m台の山はとてもチャレンジングな活動と感じられるようです．

左手奥に見えるピークがHöckenhorn

山頂にて

Höckenhornからの眺望

Over night Üeschinen Hütte Hike

低年齢のスカウトのためのハイク．午後センターを出発し，KISCがUeschinen谷に所有する山小屋に宿泊して，翌日昼までにKISCに帰ってくる，ハイキングよりも山小屋体験に重点を置いたハイクです．

Üeschin hut

ここでのキャンプファイア，BBQは最高

3 Valley Hike

Kandersteg，Ueschinen，Gastenalと3つの谷をめぐる1泊2日のハイク．1日目は山小屋に宿泊．尾根線上を歩くため，ダイナミックな展望を満喫できます．

ハイクの様子

ハイクの道中で見られるアルプス固有種　シュタインバッハ

３．２チャレンジアクティビティーの運営

プログラムスタッフはキャンプ場に設置された半日のアスレチックの運営もします．

Crate stacking

ビールケースを積み重ねてその高さを競います．最高記録は33ケース．フルボディハーネスとロープでビレーされているため，落ちても大丈夫なようになっています．

Jacob’s ladder

二本の木の間に架けられた巨大なはしごを二人で協力しながら上まで登ります．１人では腕がとどかないところもあり，協力することが重要で，信頼，コミュニケーションといった能力の教育的効果が期待されます．

Zip Wire

5mの高さから100mのケーブルで滑走する．スリル満点大人気のアクティビティ．

３．３　他部門への出向

希望すれば，他の部門の仕事を１日体験することができます．私もキャンプサイト部門で，高圧洗浄機でトイレ・シャワーを清掃したり，リサイクリングセンターで仕分けをしたり，薪を配ったり，シャーレサービス部でスープを調理したり，清掃や洗濯をしたりしました．縁の下で働くスタッフによってKISCが円滑に運営されているということを実感する良い機会でした．

4. 派遣の感想と今後の展望

信じられないほど楽しく，毎日クタクタになるほど忙しく，たくさん笑って，たくさん泣いてあっという間に過ぎた3ヶ月．「Living the Dream」このKISCのモット一通り，今は本当に長い夢から覚めたような感覚でいます．美しいスイスアルプスでのハイキング，友と語り合った夜，米を焦がして火災報知器が鳴り宿泊者全員を避難させてしまったこと，別れの涙，楽しかったことから失敗してしまったことまで3ヶ月のどの断片も忘れられない思い出です．

初めての長期海外滞在，英語での業務，何もかもが初めての経験で不安から始まったKISCでの奉仕ですが，心優しい「これぞスカウト」という仲間のスタッフと支えあいながら楽しく過ごすことができました．3ヶ月もの間寝食をともにした仲間は，最高の宝物です．言葉に書き起こすとありきたりで陳腐に聞こえてしまいますが，今回の経験は字面以上に私自身を飛躍的に成長させる機会となりました．

グローバル人材，世界で活躍できる人材が不足している，若者が内向きだ，ということをよく耳にします．しかし，海外で働くために何が必要なのでしょうか．私が3ヶ月のスイスでの滞在で感じたことは，日本でも海外でも仕事に求められることはいっしょで，期限を守る，わからないことは聞く，いつも笑顔でいるというような当たり前のことがやはり大事で，結局グローバル人材とは英語が使えるかどうか，外国で物怖じせずに普段通りでいられるか，ただそれだけの違いだということだと気付きました．逆に，英語ができても，仕事の基本がなっていない人，態度が悪い人は信用を失います．考えてみれば当たりまえのことですが，海外で働くためには様々なスキルが要求されると勝手に思い込んでいた私にとって，この事実は普段の行いが海外でも通用するということで，幾分気持ちが楽になりました．そして，そのような普遍的で基本的な能力はスカウト活動でこそ養われます．なぜならボーイスカウトはB．P．が「より良い社会人を育てる」という目的で始めた活動なのですから．

また，KISCでは第23回世界スカウトジャンボリーに対する期待の声をかなり頂きました．過去2大会はイギリス，スウェーデンとヨーロッパ圏での開催であったため，日本という異なる文化・価値観を持つ国での開催はヨーロッパのスカウト関係者にとって，とても貴重な機会であると映っているようです．私自身も日連から手渡された23WSJ広報キットを片手に，さながら「23WSJ広報大使」としてKISCのゲストに23WSJの説明をしてまわりました．世界のスカウトに関心を持ってもらっているのは嬉しい反面，この期待を裏切らない「お・も・て・な・し」ができるのだろうかと少し懸念

もします．特に，こちらのスカウトはオーバーナイトハイクやキャニオリングなどアドベンチャラスな活動を求めているので，日本のスカウティングで満足してくれるのだろうか，日本人は外国語でキャンプ生活のサポートができるのだろうかといったことを考えました．残された2年間で私，そして私のまわりのスカウトからジャンボリーに向けて精一杯のおもてなしをできるように準備していきたいと思います．まずはその第一歩として，世界スカウトジャンボリーへの派遣員又はJCTへの応募をします．

奉仕期間終了後はカンデルシュテークから電車で2時間のチューリッヒにある，スイス連邦工科大学チューリッヒ校の修士課程に交換留学生として1年間環境工学を勉強します．先に述べたようにスカウティングにおける最終的な目標は「社会に貢献するより良き社会人」を育成することです．私のKISCでの経験，引き続くスイスでの留学経験は，最終的に社会に還元されてこそスカウティングの意味があります．そのために今はそのような社会人になれるようひたすら努力をし，そして自分の手の届くところから地域社会，国際社会，スカウティングの発展に寄与していきたいと思います．

以上